

英仏租界が残した

た広州の「欧羅巴」

ヨーロッパ

沙面 古今物語



【左上】勝利賓館（旧館）。建物は立派だが、ランクは3つ星で中級ホテル。【右上】旧仏租界と旧英租界のそれぞれに教会がある。今もミサが開かれている。【左下】仏系銀行だった建物の床に紋章が残っていた。【右下】沙面大街には租界時代に作られた緑豊かな公園がある。

【文】.....佐保暢子

【写真】...久米美由紀

広州の下町特有の喧騒と雑踏を通り抜け、珠江沿いの狭い運河を渡ると、異質な空間、西洋列強の亡霊が残る旧英仏租界の沙面（シャーマン）にたどり着く。珠江から吹く湿った風が、樹齢100年を超す大木の並木と、色褪せた古い洋館を撫でていく。何十年前に時間がストップした場所である。

租界はただ、殻だけ残して、中身は中国人民の普通の生活に入れ換った。今は広州市の開発ブームから取り残され、華やかさを取り戻しつつある上海の旧租界とは正反対に、まるでペールの向こうに身を潜めているかのように静けさが漂っている。

まずは沙面の歴史を見てみよう。

17世紀。広州に十三行なる商社群が登場した。当時清朝は西洋から中国ビジネスにやってくる貿易商十三社に特別に交易権を認めていた。沙面の東側に十三行路という通りがあるが、その道の西側の珠江沿いに十三行の洋館が並び、ここで清朝お墨付きの中国側商社と取り引きしていた。ただ駐在の外国人は洋館の外に出ることは許されず、要は「出島」生活と引き換えの交易権だったのだ。

しかし、19世紀には、清朝と十三行のこの関係は大逆転する。アヘン戦争後に起きたアロー号事件、第2次アヘン



【左上】東橋を渡ると目の前にある、この緑の建物は、オフィスと住宅になっている。【右上】沙面には幼稚園や小学校もあり、平日の昼間は子供たちの歓声が聞こえる。【左下】郵便受けは各自が勝手に取り付けるので位置も形もバラバラだ。【右下】太古洋行の建物は、外壁を補修したのか、威風堂々とした姿を見せていた。



戦争で勝利した英国は、十三行の建物が戦火で焼けたことを口実に沙面を中国から取り上げた。かつて洋館に閉じこめられていた西方の異邦人たちがパンドラの箱を開けたように中国へなだれ込んで行った。そのようにして沙面の租界は誕生したのだ。

珠江に浮かぶ英国戦艦が沙面を見守り、そして広州の街に面する北側に頑丈な門が作られ、中国人の出入りは禁じられた。その門の脇にはかがんでくぐる低い門が取り付けられていた。これは特別に出入りを許された中国人掃除夫の専用口だったという。

沙面は、東西約600メートル、南北約400メートルの小さな島。ここに東西に北街、正街、南街、南北を一から五街の5本の道が作られ、一街を境に西5分の4を英国租界、残りの東5分の1をフランス租界とし、英仏の他、米、オーストリア、ドイツ、デンマーク、日本などが領事館や商社を開いた。

1946年10月、国民政府に接收されて特別区となり、その3年後に中国共産党によって解放されるまでの88年間、沙面は、租界だった。

今、残された洋館の奥には新しい住人が暮らしている。古ぼけた洋館は今も当時の威厳をわずかに残しているが、洒落た円窓の奥からカラオケが大

音量で響き、テラスには洗濯物がぶらさがり、窓辺にはたらいや中華鍋が転がっている。



主要な建物には、租界当時の「家主」を記したプレートがある。

考えてみれば、彼らがここに暮らして半世紀も経った。租界当時、ビクトリア・ホテルと呼ばれたホテルは、昔の姿を留めているものの、今の名称はビクトリー・ホテル(勝利賓館)だ(この建物には香港上海銀行があったとする記載もある)。勝利の文字が主張する通り、沙面は社会主義中国が帝国主義国から奪い戻した土地である。

珠江に面した沙面南街には、英国の太古洋行(バターフィールド&スワイヤー商会)、怡和洋行(ジャーディン・マセソン商会)など聞き覚えのある名前が残る。植民地香港で肥えた商人たちは、ここにも館を構えていた。この洋館は、沙面の中でも威風堂々とした風格

【右】20世紀初頭に建てられた建物は今でも現役。ただ租界時代に誰が住んでいたのか、今は知る人はほとんどいない。【左下】19世紀にできた室内プールもほぼ当時のまま。子供用に水深は以前より浅くしたという。【右下】同プールで開かれているスイミングスクール。水が緑色なのが気になる。



が伺える。ただ上海で特に名を鳴らした、沙遜洋行(デビッド・サーストン商会)らしき建物は中華レストランに陣取られ、似合わないネオンに照らされた奇妙な姿になっている。たぶんこれも、人民の勝利」の証しなのだろう。

人民の戦利品は洋館だけにとどまらない。1887年に建てられた室内プールもその一つだ。昔の贅沢な遊びは、今や市民の娯楽。外壁はほぼ当時のまま残されている。屋根を張り替えるなど改装したらしいが、よくぞ今まで大事に使ったものだ、物持ちの良さに感心する。

窓の奥をのぞき込んでみると、家中でくつろいでいる住人と目が合った。ここは、沙面北街の西端に位置する3階建てのアパート。1940年代に撮影された白黒写真にもこの建物が写っていたが、今もほぼ変わらぬ姿で残っている。

「你好!」。挨拶ついでに図々しく家の中を見たいと申し出ると、すぐに我々を家の中に入れてくれた。この家は洋館の1階部分を3分の1に区切った一番東端の家だ。木戸の横には今も板が抜け落ちそうな古い木造の階段があり、真つ暗な2階へ続いていた。

玄関に入ると、目の前に細長い廊下がある。クーラーはつけていなかったが、肌にひんやりとした空気が触れた。居間は広々としたリビングルーム。天井は7メートル近くはあるつか。とにかく高い。しかし、シャンデリアなどの洒落た照明はなく、ただ蛍光灯が部屋を青白く照らすだけだ。トイレ、シャワー、台所は、後から付け足したのだから、孫娘の勉強部屋、居間、寝室で全四部屋。廊下の途中に板を渡して物置にするなどあれこれ工夫して使っているようだ。

ここに暮らして47年になるという88歳の姚ばあさんが、突然訪れた我々を熱烈歓迎してくれた。

「死んだ主人が高級工(上級工)ンジニアだったものでね、単位役所の部門(からここに割り当てられたんです。広くて快適だから、もちろん嬉しかったですよ」

湖南省出身で、共産党に従い広州へ移った。子供は10人。今は長男とその嫁、孫娘、中国人メイドの5人暮らしだ。ニューヨークに移民した息子は上海に戻って就職、インドネシアに移民した息子は商売に忙しい、孫娘の一人が最近、嫁に行った。と話は尽きない。

いわゆる官舎なので、光熱費も合わ

【特集1】沙面・今昔物語



【上左・右および右下】洋館は朽ち果てるか、目も当てられないほど改造されるか、二つに一つの運命をたどることになる。【下3枚】沙面で見つけた3つの幸福。結婚で海外暮らしができる幸せ、広い居間で余生を過ごす幸せ、そして賑やかに遊ぶ洗濯物も沙面に暮らす人々の幸せを現しているかのように見えてくる。



せて月4000人民元(約52000円)という安さだ。市中の新築住宅地が月数千元はかかる。この家賃でこんな広い家に住めるとは幸せである。

沙面の洋館は広州市の政府機関が接收し、職員の社宅にしているほか、オフィスにも利用している。室内は小さく区切られて、メイド部屋も応接間もそれぞれ各家族に分けられた。1つの部屋を板で仕切ったような家もある。外観とは大違いで、中身はいわゆる長屋だ。現代の生活様式に合わせ、上下水道、電気、電話線、アンテナをつけたおかげで、洋館の通路にはぐちゃぐちゃとコードが巻き付き、壁には無粋なプラスチック製の排水管や電線が無造作に張り付けられている。かつて香港にあった九龍城砦を彷彿とさせる、継ぎはぎだらけの建物。いや人民が作り上げた究極の「前衛立体芸術」である。

沙面は過去、現在、未来が時間軸に関係なく混在した独特の空気がある。すぐ近くに広州らしいアークの強い下町があるが、その雑踏すら寄せ付けない。これも庶民生活と古びた洋館が半世紀かけて調和させた不思議な「共存関係」のおかげかもしれない。

沙面は、その独特の景観のおかげで

所帯じみたただの街にはならず、今も特別な場所である。ここはやはり「外国」に近い場所なのだ。

沙面南街の西端にある鉄筋ビルの米国領事館には連日、留学申請の人々が行列している。地図上では観光案内所のはずの場所も、職員は英文申請書の代筆業に忙しく、観光客の相手どころではない様子だ。沙面派出所には、アイリッシュ風の英会話バーがあり、今やハロー! だけでは国際社会に通用しません。英語を習得して新しいビジネスチャンスをと、留学帰りの若い中国人たちが手招きしている。

1996年末に中国政府が沙面を全国重点保護地区に指定し、洋館の保存が決まった。いよいよ「観光開発」という大義名分のもと、かつての「租界文化」が再現されようとしている。

すでに沙面は徐々に姿を変えつつある。旧フランス租界の珠江沿いと沙面北街には、レストランやバーが次々と登場し、白人や中国ヤッピーのたまり場となった。仕掛け人は、利百家「Les Bazzar」なる香港系企業だ。英語の「Bazaar」と仏語の「Bazar」を掛け合わせた「Bazaar」という名は、いかにも旧英租界を意識した命名である。彼らは洋館を利用して、レストラン、アンティークオークション、美術館を次々と企画す



【左】ら旋階段は、崩れて下に落ちそうなほど朽ちていた。【右上】フランス人シェフ、イヴァンの後ろのエメラルド色の建物は、旧フランス領事館。【右下】部屋によって暖炉のデザインが違う。長いこと使われなかったのが、崩れかけたものも多かった。



る沙面の陰の仕掛人だ。

もつとも沙面の洋館は政府資産なので、実際には広州市政府の傘下企業と共同で開発が行われる。1995年から5年の間に、利百家は広州市政府から洋館10棟の使用権を取得した。賃借期間は20〜25年だ。

住人の立ち退き問題もあるため、気の長い交渉が続く。また改装工事は中国側が行うので、デザイン面で合意するのむと苦労らしい。全洋館を借り受け、沙面全体の文化開発に着手するのが目標という。しかし、このペースですべての洋館を借りるとなると、目標達成には長い時間を要しそうだ。

彼らが開いた地中海料理レストランに入ってみると、白人客に交じって、若い中国人客も目立っていた。中国ヤツピーの流行は、珠江の河辺でワインとオリブオイルの効いた地中海の味!? 沙面はさながら広州のウオーターフロントといったところだろう。

この店のフランス人シェフ、イヴァンと意気投合し、改装を待つ洋館へ案内してもらったことになった。

ガラんと空いた天井の高い建物の中へ入った。当時は、各国の貿易会社のオフィスや、銀行があったモダンなオフィスビルだったが、戦後、政府機関のオフィスとして接収されたそうだ。昔

の住人の面影を探しにきしむ階段を恐る恐る上った。建物の中央を貫く螺旋階段の脇にはエレベーターの跡、凝ったデザインの暖炉が備え付けられた部屋…。驚いたことに、扉まで当時の模様がそのまま残っていた。

東側の通りに面した陽当たりの良いコリドーに出ると、イヴァンはフランスのおいがすると言った。「ここをフレンチレストランにしたらいいかなあ」と、彼はあれこれ改築案を描いている。確かに、ここならかなり贅沢な店にできそうだ。

利百家が借りた洋館は、中国や海外のエグゼクティブを対象にしたビジネスセンターや、内外の芸術家を集めたミュージアムに生まれ変わる予定だという。近い将来、洋館を改装してスパやエステ施設を備えたクラブハウスにする計画もある。色褪せた壁の奥にしまい込まれていた沙面の過去の栄華が、200年の時を経て蘇るうとしていようである。

イヴァンとこんな話をしていると、なんだか今もここが租界のような気がしてきた。そう言いつつ、彼は、そう、帰ってきたんだよ」とおどけていた。「西洋」が沙面に帰ってきたが、もちろん今度の手土産はアヘンではなくて、美味しいワインとフランスパンだ。

【特集1】沙面・今昔物語

沙面へのアクセス

広州のタクシーは安く便利。広州東駅から沙面までは交通渋滞がなければ約25分(料金はおよそ40元)。また広州駅から約20分、広州白雲空港から約30分。

香港から広州へのアクセス

九広直通列車: 紅磡駅 - 広州東駅まで約1時間半。運賃は片道HK\$230(特等)HK\$190(1等)HK\$180(2等)。直通バス: 香港各地から広州市内各地(白天鷺賓館行きのバスもある)へ毎朝出ている。渋滞がなければ所要時間は約3時間強。運賃は片道HK\$100前後。列車とバスのチケットは香港の中国旅行社(下記参照)で購入できる(ホテルの予約も可能)。週末は込むので事前に往復チケットを買う方がよい。

香港の中国旅行社: 香港灣仔軒尼詩道138号修頓中心・香港銅鑼灣百德新街2-20号恒隆中心609・尖沙咀弥敦道27-33号良士大廈・九龍駅内など香港各地にある。



沙面の主なホテル

白天鷺賓館 / White Swan Hotel Guangzhou

広州市沙面南街1号
TEL:+86-20-81886988
FAX:+86-20-81862076
RMB900 ~

珠江に面した高層ホテル。海外の要人も宿泊する、広州では老舗に入る高級ホテル。

広東勝利賓館 / Guangdong Victory Hotel
新館

広州市沙面北街53号
旧館 / 旧Victoria Hotel
広州市沙面街54号
TEL:+86-20-81862622

FAX:+86-20-81861062
RMB399 ~ (新館) / RMB280 ~ (旧館)
旧館の内部はかなり改装されており、レトロな雰囲気はあまり期待できない。
記載の宿泊料金はスタンダードルーム

創世記 / Genesis Cafe

広州市沙面北街35-37号
TEL:+86-20-81869825

営業時間: 11:00am ~ 1:00am
地中海料理店 & バー。輸入ワインも揃う。



蘭桂坊 / Lan Kwai Fong

広州市沙面南街5号
TEL:+86-20-81919733
営業時間: 10:00am ~ 4:00am
タイ料理店。

沙面の人気レストラン & バー

翠洲花園 / Jade Cafe

広州市沙面南街7号
TEL:+86-20-84101819
営業時間: 11:30am ~ 2:00am

コンチネンタルやエスニック料理が中心。ガジュマルの大きな木が密生した屋外も快適。



バー & カフェ

沙面吧 / Shamen Bar

広州市沙面大街56号
営業時間: ~ 4:00am(平日3:00am)
沙面の洋館を利用した趣のあるバー。

露絲吧 / Lucy's Bar & Cafe

広州市沙面南街3号
営業時間: ~ 2:00am
アメリカンスタイルのバー。

中華料理

僑美食家

広州市沙面大街56号
TEL:+86-20-81884168
営業時間: 11:00am ~ 4:00am
広東料理店。海鮮料理のほか、野味(ゲテモノ料理)もある。